

(第3種郵便物認可)

愛知県豊橋市の農家が、「農業の匠(たくみ)」を募って共同で情報発信をする「豊橋百億人(のうじん)」を立ち上げた。ホームページ(HP)などでプロの技、こだわりを前面に出して消費者にPRする。販

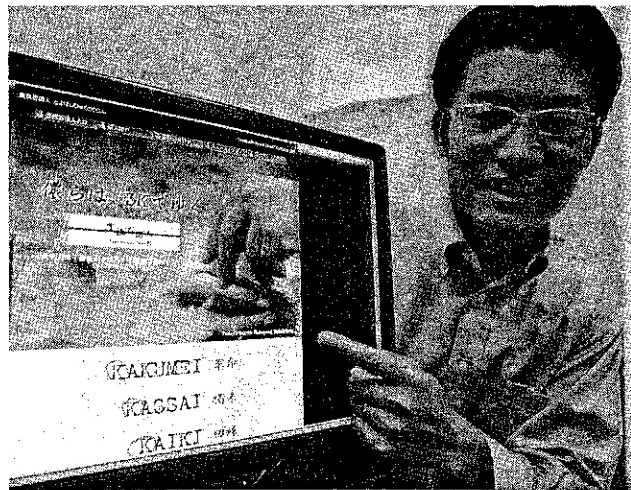
農業の匠 腕魅せる

売状況や百億人への貢献度を評価し、農家同士で競い合い、それを消費者に公開する仕組みを取り入れたのが特徴だ。今後、百億人を支援する消費者クラブを立ち上げるほか、通信販売も目指す。

販売力や意欲格付け

競争結果HPに

100人会員目標



デザインにこだわった豊橋百億人のホームページをPRする事務局長の清水さん(愛知県豊橋市)

情報発信で「共同体」

愛知の農家

意欲、資格など150項目の自己評価シートを基に認定する。百億人へ入会後も、販売実績や活動から評価する。評価結果で1部、2部と序列をつけ、消費者に公開する。

同市は農業生産額が全国トップクラス。品目をまたいだプロ農家が連携し、豊橋ブランドの強化も狙う。

河合代表は「互いに切磋琢磨(せつさくま)して活力ある活動をした

から評価する。評価結果で1部、2部と序列をつけ、消費者に公開する。

だわりを発信したい」と、農家の前向きな取り組みに関心を寄せる。

仕組みは代表を務めるかんきつ農家の河合浩樹さん(47)が提案。発起人の3農家を含め大葉、柿、茶、花きなど5農家を認定した。いずれも無農薬栽培やJGAP(日本版農業生産工程管理)の導入などをしている。認定は東三河地域の農家が対象。情報発信への

い。農業という職業の価値を高めるのが目標」と意気込む。会員で月1回集まり、活動内容や方針を決める。

来年をめどにHPでの販売を始め、消費者による百億人サポーターズクラブも発足する。百億人まで「あと一歩」の後継者らによるグループ「百億人」設立や、農家のスタイルを評価する「ベストノージスト賞」など、層が厚い仕組みを考えている。農家会員は100人が目標だ。

事務局として農家の評価にもかかわる市内のHP制作会社、都デザインの清水貴裕代表は「農家は外見、心意気とも格好いい人が多い。個人のことだわりを発信したい」と、農家の前向きな取り組みに関心を寄せる。